Elementary Archaeological Report
てらこや埋文
令和5年
春号

博物館連携トピックス　蓋井島（下関市）筏石遺跡調査研究プロジェクト

当館は、令和４年（2022）３月に土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム（下関市豊北町所在：以下「人類学ミュージアム」と表記）と連携協力協定を締結しました。初年度の活動は、本学吉田キャンパス（山口市）が所在する吉田遺跡の古墳時代から古代に関する調査成果展を、『吉田遺跡展～地方豪族の登場と官衙成立の一事例』と題して、令和４年９月６日から 11 月 27 日の会期で人類学ミュージアムにて開催しました。

その後、令和５年度以降の活動について両館で協議した結果、下関市吉母の北西約６㎞の響灘に浮かぶ離島、蓋井島（ふたおいじま）を対象に、合同調査を行うことになりました。

蓋井島の環境

蓋井島は、響灘に浮かぶ島の中では比較的大きく、島の周囲は 10.4 ㎞、面積は 2.32 平方㎞を測りますが、島内は大山（おおやま：標高 252m）、乞月山（こいづきやま：標高 145m）、金比羅山（こんぴらやま：標高 148m）から延びる丘陵に占められており、平地がほとんど存在しません。これまでに判明している遺跡や現在の集落は、島の南東谷地、蓋井島漁港周辺に限定して立地しています（写真１・２）。

筏石（いかだいし）遺跡の調査

昭和32年（1957）６月に実施された下関市教育委員会による蓋井島「山ノ神神事」（国指定無形民俗文化財）の事前調査時に発見された遺跡です。

山口県教育委員会と下関市教育委員会の委託を受けた小野忠凞氏と三浦肇氏（当時本学教育学部）が中心となり、同年９月９日から15日にかけて発掘調査が行われました。その結果、少数の柱穴と遺物包含層や貝層が検出され、須恵器や土師器、製塩土器、貝殻や獣骨、魚骨などが出土したとされるのですが、成果報告（小野忠凞「筏石遺跡」『山口県文化財概要 第４集 埋蔵文化財』1961）の内容が断片的なものであったことから、遺跡の特徴や性格が不明瞭のまま、出土資料は下関市教育委員会と当館に収蔵され続けていました。

現物確認と現地視察

令和５年度は、下関市教育委員会と下関市立考古博物館の協力を得て、出土資料の確認作業を行いました。また、２月 10 日（土）に人類学ミュージアムスタッフとともに蓋井島を訪問し、遺跡地の現地視察を実施しました（写真３）。案内いただいた島の皆さま、ありがとうございました。

令和６年度は、出土資料の悉皆調査を行います。膨大な数の考古資料と向きあう日々を楽しみたいと思います。令和７年度には調査成果物を作成し、様々なかたちで成果を公開する予定です。人類学ミュージアムと当館の活動に、今後ともご助言、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

（横山成己）

写真１ 蓋井島航空写真
昭和 36 年（1961）1 月 22 日撮影
出典：国土地理院ウェブサイト　に加筆

写真２ フェリー（蓋井丸）から集落と漁港、遺跡地を望む
（南海上から）
２月 10 日撮影

写真３ 遺跡地はブッシュの中に
（東から）
２月 10 日撮影

展示トピックス　回復しつつある展示活動

令和４年度までの展示では、新型コロナウィルス対策のため、10名以上の展示室への同時入室を制限していましたが、令和５年５月８日に同ウィルスが５類感染症へ移行したことを受け、コロナ禍前の通常状態で展示室を開放することになりました。

コロナ禍前は年間およそ2,000名の方々に展示を観覧いただいていましたが、コロナ禍以降の入館者は152名（令和２年度）、545名（令和３年度）、719名（令和４年度）と推移していました。当館の利活用がどこまで回復するのか、不安を抱えながらの展示活動となりました。

第９回山口大学学術資産継承事業成果展『宝山の一角』

令和５年３月22日（水）から６月16日（金）の会期で、第９回となる学術資産継承事業成果展『宝山の一角』を開催しました（写真４）。展示されたのは「南極・ひだ・ヒマラヤの岩石資料（理学部）」「石川県立工業学校結晶釉花瓶（経済学部商品資料館）」「東亜経済研究所所蔵貴重資料（経済学部東亜経済研究所）」「小林和作《室戸岬》（教育学部）」そして当館所蔵考古資料で保存処理を終えた「吉田遺跡官衙関連資料（木製品）」（写真５）です。

会期中は、新入ガイダンスや共通教育科目、専門科目での授業見学に活用されるなど、コロナ禍以前のにぎわいを取り戻しているように感じられました（写真６）。６月中には前年度の入館者総数を超えることとなり、最終的な入館者数は792名となりました。

また、国際博物館の日（５月18日）から、展示アンケート調査に協力いただいた方に、今年のテーマ "Museums, Sustainability and Well-being"（博物館と持続可能性、ウェルビーイング）にちなみ、再生不織布製オリジナルトートバッグをプレゼントしました。この取り組みが功を奏し、アンケート回収率は過去最高の26％に達しました。

観覧者からは、「学部を越え、学術資料が一堂に会する展示をまた開催して欲しい」「山口大学出身者の紹介展示をして欲しい」「山口県出身の文豪の資料展が見たい」など展示開催の希望や、「山口版『ブラタモリ』を開催して欲しい」などイベント開催の要望が寄せられました。

当展示に対しては、当館は共催組織として展示会場の提供と展示設営の協力、会期中の資料管理と観覧者対応を行っています。考古資料以外は専門外となるため、観覧者からの展示品の質問等に十分に対応できないこともありますが、全学的な取り組みを支える組織として、今後も期待に応えていきたいと考えています。

地域連携企画展『山口大 考古博』

本年度は、連携協力協定を結ぶ山口県立山口博物館が『やまぐち 大考古博』と銘打ち、約40年ぶりに考古学を素材とする夏期特別展を開催するとのことで、県内博物館や自治体埋蔵文化財担当部署に対し、連携の呼びかけがありました。

当館は、通常夏期から秋期にかけては企画展を開催していますが、令和５年度は名称を地域連携企画展に変更し、『山口大 考古博』と題して、収蔵している古墳時代から古代にかけての考古資料を公開するとともに、解説パネルで遺跡の特徴を詳しく紹介しました（写真７・８）。

展示で紹介した遺跡は、長光寺山古墳（山陽小野田市厚狭）、筈倉古墳（山口市秋穂）、御屋敷山１号墳（下松市）、見島ジーコンボ古墳群（萩市見島）、筏石遺跡（下関市蓋井島）、そして本学吉田キャンパスが所在する吉田遺跡（山口市）です。このうち、長光寺山古墳と見島ジーコンボ古墳群は、山口博物館でも展示が行われていましたが、観覧者からは「こちらの展示で勉強してから、山口博物館を見に行けば良かった」という感想が多数寄せられました。また筏石遺跡については、前頁で紹介した土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムとの連携事業始動展示に位置づけ、館蔵品を確認するとともに、代表的な遺物を選定し公開しました。

令和５年７月３日（月）から10月13日（金）の会期中、544名もの方々にご観覧いただきました。８月から９月にかけては本学が夏季休業

写真4　『宝山の一角』も
９回目をむかえました
3月20日撮影

写真5 考古資料として
保存処理を終えた木製品を展示しました
3月20日撮影

写真6 『宝山の一角』は例年
新入生ガイダンスや授業見学でにぎわいます
4月27日撮影

写真7 地域連携企画展
『山口大 考古博』を開催
6月30日撮影

をむかえることから、キャンパス内が閑散とする時期でもあるのですが、団体見学（写真９）の依頼も複数あり、来場者数が再増加しつつある吉田地区オープンキャンパスにおいても、２日間で高校生と保護者合わせて188名の入館がありました。ただし、コロナ禍以前は１日開催で300名を超える入館者があったことを考えると、いまだ回復途上にあることも認識させられました。

「今後希望する展示の内容」に関するアンケート調査では、「学術資料（お宝）を見せて欲しい。保管ばかりが仕事ではない！」というユニークなお叱りや、「学内遺跡の紹介と発掘の歴史を、県立博物館など広い場所で見たい」という耳の痛くなるご意見が寄せられたほか、「学外者なので総合大学らしいスケールの大きさに圧倒されます。存在そのものがすごいと思います。ただこういう資料館は、私立大学の方が立派です。あまり予算がないのでしょうか？」といった、本学のフトコロ事情にまでご心配いただく声も寄せられました。安心してください・・はいってますよ、運営費交付金。

山口博物館の特別展『やまぐち 大考古博』では、県内博物館など21か所にスタンプが設置され、スタンプラリーが開催されました。当館にもスタンプが設置され、『やまぐち 大考古博』会期末（９月３日（日））直前には、スタンプラリーカードを片手にした小さな子どもが、お母さんに連れられてヒョコヒョコ来館する姿が見られました。各施設とも同様な姿が見られたのではないでしょうか。このような取り組みを契機に、博物館などの文化施設が地域の人々に周知されるのは、悪いことではないですね。スタンプラリーは大盛況だったようで、18個の懸賞品に対し、600通を超える応募があったそうです。私の娘は山口に帰省中挑戦し、みごと当選していました！ 厳正な抽選結果と聞いています。

令和５年度 山口県大学ＭＬ（ミュージアム・ライブラリー）連携特別展『信仰とマツリ～人が生み出す精神文化～』

山口県の大学博物館と図書館が、共通テーマに従い所蔵する学術資料や教育研究成果を公開する取り組みで、今年度は12大学14館の参加で実施されることになりました。今年度の共通テーマが「うみだす」に決定されたことを受け、当館では人文学部の出展協力のもと、古代の信仰とマツリに関する展示を開催することになりました（写真10）。

展示では、①家屋の廃棄、井戸の廃棄とマツリ、②縄文時代の石棒、③古代の経塚信仰、④大きな（小さな）道具を使ったマツリ、⑤弥生時代の分銅型土製品、の順にテーマを定め、実物資料の公開と解説を行いました。また、今年度より山口県大学ＭＬ連携事業 web（http://www.oai.yamaguchi-u.ac.jp/ml/）にて参加各館の解説動画を公開することになったため、約３分の動画を撮影し、公開しました（写真11）。

考古学において、マツリの道具（祭祀遺物）は取り扱いにくい遺物の一つと言えます。形状の違いによって分類し、時系列順に出現・消滅の時期を明らかにするという作業は比較的容易ですが、その道具が具体的にどのように使われたのか、その道具から当時の信仰など形の残らない「精神文化」を復元する作業は非常に困難だからです。祭祀遺物の多くは、いまだ多くの謎に包まれていると言って良いでしょう。展示では、主に吉田遺跡出土品を用い、資料に対する様々な解釈を紹介しました。

令和５年11月６日（月）から令和６年１月31日（水）までの会期で、330名の方々に観覧いただきました。観覧者からは、「とてもおもしろかったです。経塚と円仁さんの関係が興味深かったです」といった感想や、「各々貴重な意味や事実を伝えてくれる遺物ですから、関連の報告書とか論文もあるはずと思われます。追加的な情報をほしがる観覧客のため論文番号や関連書籍等も並記したらもっと役立つと思われます」といった真摯なご意見もいただきました。

５類感染症への移行を受け、当事業でもスタンプラリーが再開されましたが、当館で見事に達成し、景品のエコバッグを受け取られた方は２名にとどまりました。10年以上続く当事業ですが、地域にまだまだ周知されていないと感じます。今後の大きな課題として、その解消につとめたいと思います。

（横山成己）

写真８ 地域連携企画展『山口大 考古博』
展示の模様
6月30日撮影

写真９ 地域連携企画展『山口大 考古博』
教育学部附属山口中学校による団体見学
7月7日撮影

写真10 山口県大学ML連携特別展
『信仰とマツリ～人が生み出す精神文化～』を開催
11月2日撮影

写真11 山口県大学ML連携事業webでの
解説動画撮影の模様
11月20日撮影

勝手にサイクル県やまぐち Project　遺跡めぐりサイクリング vol.5　下松市１周コース

健康促進のためサイクリングを楽しみつつ、県内の貴重な埋蔵文化財を学習すること目的としたこの連載…でしたが、前回の電動アシスト使用でその目的を逸脱し、多方面から叱咤激励を受けてしまいました。今回はしぶしぶですが人力に回帰します！ ただし走向距離をぐっと縮めて… 今回紹介するのは「下松市１周コース」です。

「楽」だから「楽しい」のだ

今回の出発地点は下松スポーツ公園（写真 12）。11 時前に到着しましたが、駐車場に野犬がいたのでしばし車内で様子見です。周南市の野犬問題は耳にしますが、下松市にも増えているのでしょうか。周囲の人々は特に気にしていないようなので、自転車を降ろし出発します。

最初の目的地は下松市地域交流センター「ふれあいの館」。駐車場から北山丘陵を急登し、トンネルを抜けて急降します。現山陽道である国道２号線を西行し、丘陵を再び急登して到着（写真 13）。この丘陵の北斜面には３基からなる常森古墳群（古墳時代中～後期）と５基からなる為弘古墳群（古墳時代後期）が分布していたのですが、周南記念病院と介護老人保健施設建設のため８基中６基が発掘調査後に消滅してしまいました。しかし「ふれあいの館」には出土品の展示コーナーが設けられており（写真 14）、出土品の一部を見学することができます。

丘陵を下って旧山陽道へ（写真 15）。近世山陽道の名残をとどめた道ですが、古代山陽道においては周防国都濃（つの）郡生屋（いくのや）に駅家（うまや：公の使者に馬や食事などを提供する施設）が設置されていました。生野屋は丘陵に挟まれた狭地であることから、古代以降山陽道は大きく動いていないはず。将来の駅家跡の発見が期待されます。

ここからは熊毛丘陵南斜面を急登します。住宅地の最高部付近、標高約 80mの丘陵頂部に築かれていたのが惣ヶ迫古墳（古墳時代後期後半）で、発掘調査後は墓地となっています（写真 16）。南に下松市街地を一望できる（写真 17）この地に築かれたのは、径 16mの横穴式石室墳で、墳丘からは家形埴輪のほか、奇妙な形の朝顔形埴輪などが出土しています。これらの埴輪も「ふれあいの館」で実見することができます。

住宅地を大きく西に回って丘陵を下りると、花岡古墳（古墳時代前期後半～中期前半か）に至ります。前方部が大きく破壊を受けていますが、全長 48mの前方後円墳と推定されています（写真 18）。

旧山陽道にもどり、江戸時代に萩藩都濃郡宰判の勘場・御茶屋跡を見学します。現在は高くそびえる槙柏（シンパク＝イブキ：ヒノキ科ビャクシン属）だけが往時の姿をとどめています（写真 19）。

ここから旧山陽道を西ー西南に進み、末武川右岸の和田丘陵を急登すると宮原１号墳（古墳時代後期）に至ります（写真 20・21）。巨石を用いた横穴式石室墳で、大正期に官立山口高等学校生により調査されたとの記録が残ります。丘陵を南西方向に下りると、宮原２・３号墳（写真 22）が分布します。宮原２号墳（古墳時代後期前半か）の周溝からは、県内唯一の馬形埴輪が出土しており、「ふれあいの館」に展示されています。

最後に、下松市街地を東南に走り抜け、北山丘陵の西南端部を急登し、天王森西古墳（古墳時代中期か）と天王森古墳（古墳時代後期前半）の２基の前方後円墳を見学します（写真 23 ～ 27）。当地は近年の宅地造成で景観が激変してしまいましたが、後者の古墳では、工事中の立会調査で多数の形象埴輪が出土し、注目を集めました。

そして下松スポーツ公園にゴール。走行距離 14 ㎞、見学含め２時間の行程でした。振り返ると急坂が多く立ちこぎばかりで距離の割に足がパンパンに…自転車を使わず、半日かけてのんびり歩いた方が良いと思いました。次回は「楽しむ」目的から逸脱しないよう、頑張ります。

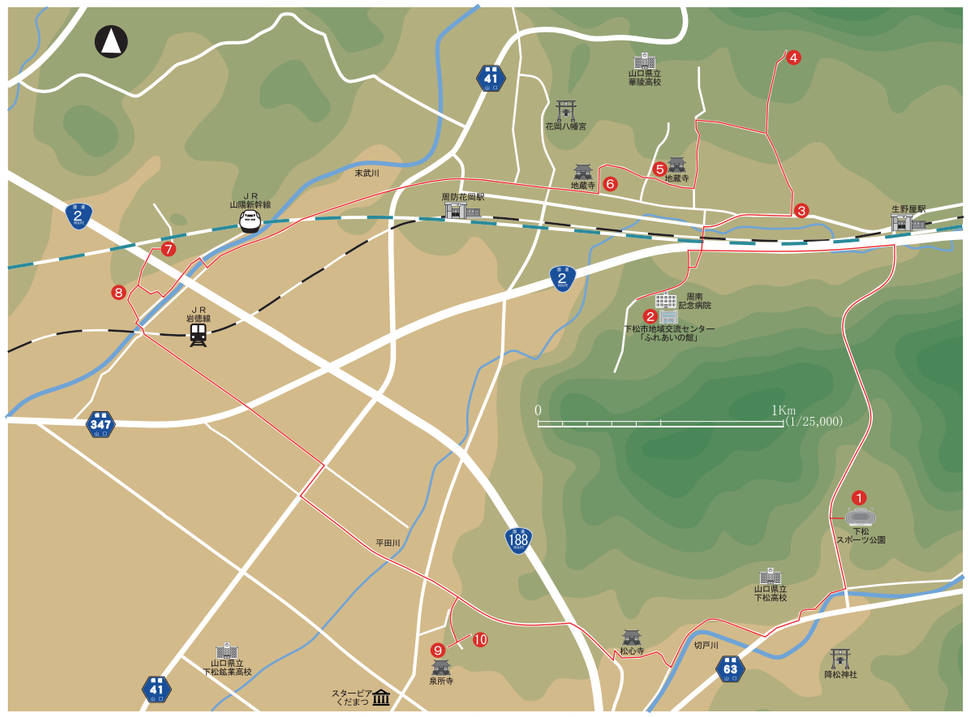

図１ サイクリングコース（赤線）

写真12 ①スタート地点の下松スポーツ公園
駐車場で野犬がお出迎えです
1月14日撮影

写真13 ②急登急降の連続で「ふれあいの館」へ
丘陵北斜面と北西方向に花岡地区を一望できます
1月14日撮影

写真14 ②施設内には市内の古墳から出土した
土器や埴輪の展示コーナーがあります
1月14日撮影

写真15 ③旧山陽道です
この先に古代の駅家「生屋」があるかも…
1月14日撮影

写真16 ④惣ヶ迫古墳跡へは住宅地を急登します
現在は墓地へと姿を変えています
1月14日撮影

写真17 ④この場所から遠く瀬戸内海が望めます
写真中央の大きな建物が周南記念病院です
1月14日撮影

写真18 ⑤住宅地を下り花岡古墳へ
全長48mの前方後円墳です
1月14日撮影

写真19 ⑥下松市指定文化財「花岡御茶屋ノ槙柏」
江戸時代の都濃郡宰判勘場・御茶屋跡です
1月14日撮影

写真20 ⑦旧山陽道を西に進むと
宮原１号墳に到着します
1月14日撮影

写真21 ⑦宮原１号墳は
巨石を用いた横穴式石室墳です
1月14日撮影

写真22 ⑧宮原２・３号墳は私有地内にあります
２号墳からは馬形埴輪が出土しています
1月14日撮影

写真23 ⑨下松市街地を東に進むと
天王森西古墳に到着します
1月14日撮影

写真24 ⑨全長56m以上の前方後円墳で
後円部には東光寺観音堂と庫裏が建っています
1月14日撮影

写真25 ⑨天王森西古墳の北東200mの
住宅地内に天王森古墳が残されています
1月14日撮影

写真26 ⑩墳丘は半壊していますが
全長45mの前方後円墳と推定されています
1月14日撮影

写真27 ⑩後円部頂には立石があります
下松市街地が一望できます
1月14日撮影

掲載の写真は、停車時または
車載カメラにて撮影しています
走行中の手放し撮影は厳禁です
文・写真・作図
横山成己

地域連携トピックス　講座「古代ウォーク」

山口県央部、山口市吉敷～白石地区の遺跡めぐり

平成 27 年度に山口県立山口博物館と連携協力協定を締結以降、毎年「古代ウォーク」と題して遺跡をめぐる講座を開催しています。令和５年度は、県央部の山口市吉敷地区から白石地区を対象に、約８㎞のコースを設定しました。

山口盆地北西縁部には、考古学研究上重要な遺跡が数多く分布していますが、山口市民にはその存在が十分に知られていないと感じています。

開催するにあたり、コースの検討や下見を綿密に行い、50 頁におよぶ当日資料を作成し、10 月 28 日（土）の開催当日を迎えました。今回の参加者は 14 名。スケジュールは以下の通りでした。

①11 時 00 分～ 12 時 00 分　訪れる遺跡の出土資料を見学（写真 28）（於：山口県立山口博物館講座室・展示室・野外展示）

講座室にて参加者に講座の趣旨を説明した後、今回訪れる天神山第１号墳出土の短甲と鉄器類を展示室で、赤妻古墳出土の舟形石棺と箱式石棺を屋外展示場で見学しました。

②12 時 49 分～ 12 時 59 分　バスで山口県児童センターまで移動

③13 時 20 分～ 13 時 35 分　朝田墳墓群見学（写真 29）

弥生時代から古墳時代にかけて、さらには中世の墓も設けられている山口県下最大の墳墓群を見学しました。一部が国の史跡に指定されており、朝田トンネルの上に現地保存され、史跡公園となっています。

④14 時 15 分～ 14 時 30 分　天神山古墳群見学（写真 30）

中村遺跡、若宮滝河内遺跡を通り抜け、古墳時代前期から後期にかけての８基からなる古墳群に到着。古墳時代中期の首長墓である第１号墳では、昭和 37 年（1962）に山口市立鴻南中学校郷土研究部を中心に発掘調査が行われ、短甲とともに多数の鉄器が出土しました

⑤14 時 40 分　新宮山古墳群遠望

標高 69mの丘陵上に立地する６基からなる古墳群で、今回は山裾からの遠望しました。平成６年（1994）から７年（1995）にかけて、古墳時代中期の首長墓である第１号墳の発掘調査が行われ、全長 36mの前方後円墳であること、主体部が石棺系竪穴式石室であることなどが確認されました。石室からは多数の玉類などが出土しています。

⑥14 時 55 分　上東遺跡見学

上東第２公園前で、古墳時代から古代にかけての上東遺跡の集落について解説しました。ここで 10 分間の休憩です。

⑦15 時 20 分　赤妻古墳見学（写真 31）

明治 30 年（1897）と 41 年（1908）に石棺（山口県立山口博物館屋外展示）が出土したことで著名な、古墳時代中期の首長墓である赤妻古墳を見学しました。削平により墳丘は消滅しましたが、昭和 62 年（1987）と 63 年（1988）に行われた発掘調査により、直径 32mの円墳または帆立貝式古墳であったと推定されています。

⑧15 時 45 分～ 16 時 00 分　糸米遺跡遠望と第１号台状墓石棺

赤妻遺跡を通り抜け、国道９号線横を進み、糸米交差点から糸米遺跡を遠望しました。そして弥生時代後期の第１号台状墓石棺が移築されている山口市立白石中学校へ。第４号墳石棺は、当館に移築されています。

⑨16 時 10 分　茶臼山墳墓群

古墳時代後期の茶臼山古墳と、弥生時代終末期から古墳時代初頭の 11 基の石棺からなる茶臼山石棺群跡地を確認しました。

⑩16 時 20 分　山口県立山口博物館・茶臼山石棺群移築公園

茶臼山石棺群が移築されている山口県立山口博物館の野外展示場にゴールしました。子どもを含め、参加者全員が無事に歩ききりました。参加者からは「現地を巡るのは大変良いと思います。季節もちょうどよかったです。また参加します」などの声が寄せられました。（横山成己）

写真28 山口県立山口博物館での遺跡出土品解説
10月28日撮影

写真29 朝田墳墓群見学・解説
10月28日撮影

写真30 天神山古墳群見学・解説
10月28日撮影

写真31 赤妻古墳見学・解説
10月28日撮影

資料館この一品 vol.28　伝光市室積出土の新羅系陶質土器

焼き物は焼成温度によって種類が分けられていて、800℃前後が「土器」、1100℃前後が「陶質土器」、1200℃前後が「陶器」、1250℃以上が「磁器」とされています。焼き物の区分に照らし合わせると、考古学でよく出てくる縄文土器・弥生土器・土師器は「土器」、須恵器は「陶質土器」ということになります。

考古学の用語の視点からとなると少し違ってきます。陶質土器とは朝鮮半島からもたらされた1100℃前後で焼かれた土器を指し、朝鮮半島系陶質土器と呼ばれます。この陶質土器の製作技術を模して日本国内で生産された土器を須恵器と呼び分けています。朝鮮半島系陶質土器は、調査研究の進展により、加耶系、百済系、新羅系と地域を限定されるようになっています。

当館では小野忠凞氏（元山口大学教育学部教授）が山口大学教育学部光分校（現山口大学教育学部附属光中学校）に勤務していた昭和25～30年頃に地元の方から寄贈された陶質土器を所蔵しています。出土地は不明ですが、光市大字室積村周辺から出土した可能性が高いとされています。

当館所蔵品は、口縁部と頸部は欠失していますが肩部以下は完存していて、長頸の壺であったと思われます。肩部外面には文様が施されており、上に一条、下に二条の沈線によって三段に区画されています。区画の上段と下段には、上部の開いた円文と刺突文を組み合わせたスタンプ文が、中段には三角形の線刻が施されています。このような文様は7世紀代を中心に日本に搬入された陶質土器にみられるもので、一般的に統一新羅系陶質土器と呼ばれています。当館所蔵品については、その文様や形態の特徴などから7世紀初頭頃のものと推測されます。

写真32 当館所蔵の新羅系陶質土器

陶質土器の研究は、日本国内での出土状況等からその背景にある朝鮮半島文化の受容や日本との人的交流関係の一端を明らかに出来る可能性があります。

日本国内での統一新羅系陶質土器の出土は、古墳、宮都・官衙関連施設、集落、生産遺跡から出土が確認されています。出土遺跡跡の種類別にその搬入背景や出土する器種の傾向等について様々な検討がなされており、畿内では官営施設、九州では古墳、関東地方では住居跡等の集落遺跡からの出土が多いことが指摘されています。また、古墳からは多様な器種が出土している一方、当館所蔵品のような長頸壺は官営施設からの出土が多いようです。当館所蔵品は出土地不明の伝世品ですが、どのような遺跡で使われていたかを知る手掛かりになのるかもしれません。

（水久保祥子）

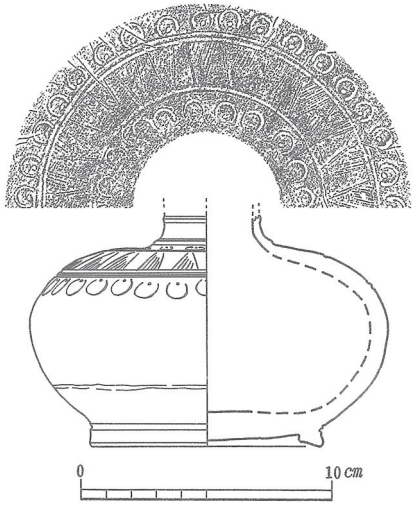

図２　当館所蔵の新羅系陶質土器実測図
（福島1986より転載）

【参考文献】
岩崎仁志　2000　「渡来系土器」『山口県史　資料編　考古１』
江浦　洋　1988　「日本出土の統一新羅系土器とその背景」『考古学雑誌』第74巻第２号
定森英夫　1990　「日本出土陶質土器の原郷」『季刊考古学』第33号　（株）雄山閣
朴　成南　2022　『統一新羅土器様式の研究』（株）雄山閣
福島朝子　1986　「山口大学埋蔵文化財資料館所蔵の新羅系陶質土器について」『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅳ』
宮川禎一　1988　「新羅陶質土器研究の一視点」『古代文化』第40巻第６号
宮川禎一　2002　「須恵器と陶質土器」『季刊考古学』第81号　（株）雄山閣

令和５年度 埋蔵文化財資料館の活動

４月 3/22（水）～6/16（金）第９回山口大学学術資産継承事業成果展『宝山の一角』開催
入館者数 792 名
4/10（月）講座「古代ウォーク（山口市吉敷～白石）」下見

５月 5/2（火）人文学部新入生ガイダンス団体見学（32 名）
5/12（金）教育学部歴史コース新入生展示団体見学（10 名）
5/19（金）山口県博物館協会総会（於：山口県立図書館レクチャールーム）

６月 6/1（木）ケント大学による埋蔵文化財資料館視察
6/17（土）島根県立古代出雲歴史博物館学芸員による収蔵品調査
6/21（水）山口県大学 ML 連携事業総会
6/27（火）理学部学生（６名）博物館実務実習

写真 33 第９回学術資産継承事業成果展『宝山の一角』
館長引率による学生の展示見学
４月７日撮影

７月 7/3（月）～10/13（金）地域連連携企画展『山口大考古博』開催
入館者数 544 名
7/7（金）JICA による埋蔵文化財資料館視察
教育学部附属山口中学校生徒団体見学（17 名）
7/24（月）理学部学生（６名）博物館実務実習
7/31（月）土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムとの連携事業
筏石遺跡出土資料調査（於：下関市立考古博物館）

写真 34 講座「古代ウォーク」
山口市吉敷～白石コース下見風景
10 月 19 日撮影

８月 8/5（土）・6日（日）オープンキャンパス（吉田）に伴う臨時開館
8/8（火）山口県大学 ML 連携事業幹事会
8/9（水）白石構内教育学部附属山口中学校改修工事に伴う立会調査
8/21（月）～23 日（水）・26 日（土）
吉田構内総合研究棟高圧ケーブル更新工事に伴う立会調査
8/28（月）吉田構内災害復旧に伴う緊急立会調査

９月 9/11（月）吉田構内教育学部Ａ棟カーポート取設工事（慎重工事）に伴う緊急対応

10 月 10/19（木）講座「古代ウォーク（山口市吉敷～白石）」下見
10/23（月）吉田構内農学部授業（生物資源環境科学基礎実験）に伴う立会調査
10/28（土）講座「古代ウォーク（山口市吉敷～白石）」開催　参加者 14 名
10/31（火）京都大学学生による収蔵品調査

写真 35 吉田構内
農学部附属農場果樹植え替えに伴う立会調査
作業風景
11 月 15 日撮影

11 月 11/6（月）～1/31（水）令和５年度山口県大学 ML 連携特別展
『信仰とマツリ～人が生み出す精神文化～』開催　入館者総数 330 名
11/7（火）～15（水）・18（土）吉田構内農学部附属農場果樹植え替えに伴う立会調査
11/30（木）山口県博物館協会研修会（於：下関市立美術館）

12 月 12/9（土）学生サークルトムソーヤーズと福川こどもクラブのイベント
「山口大学探検」開催のため臨時開館
12/20（水）山東大学による視察
12/25（月）・27（水）白石構内教育学部附属山口中学校改修工事に伴う立会調査

１月
２月 2/9（金）山口県市町埋蔵文化財連絡協議会総会・研修会
2/10（土）土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムとの連携事業
筏石遺跡現地調査（於：下関市蓋井島）
2/17（土）講座「古代ウォーク（下松市）」コース下見

３月 3/11（月）吉田構内既設竹撤去処分に伴う立会調査
3/18（月）～6/14（金）
『山口大学の精華 Ⅰ美術ー同時開催 令和５年度学術資産継承事業成果展ー』
開催

写真 36 講座「古代ウォーク」
下松市コース下見風景
２月 17 日撮影

山口大学埋蔵文化財資料館通信
第 34 号
『てらこや埋文』2024 春号

編集・発行
山口大学埋蔵文化財資料館
〒753-8511　山口県山口市吉田 1677-1
【Tel】083-933-5035
【E-mail】yuam@yamaguchi-u.ac.jp
【HP】http://yuam.oai.yamaguchi-u.ac.jp
発行年月日　2024.3.29.